

埼玉のスタートアップへの期待

ぶぎん地域経済研究所 専務取締役／チーフエコノミスト 大西 浩一郎

埼玉の実業家・渋沢栄一翁は、約 500 社もの企業の設立・育成に関与しました。そして、渋沢翁の肖像による新一万円札の登場を控えた本年 6 月、埼玉県は翁の理念を受け継ぐべく、「渋沢栄一起業家サロン（仮称）」を来年夏に開設し、起業家や起業希望者を支援する計画を発表しました。「オープンイノベーションの創出・促進」、「スタートアップの創出・成長支援」、「イノベーションを担う人材の育成」といったコンセプトを掲げています。

では、埼玉のスタートアップの現状は、翁の出身地にふさわしい状況にあるのでしょうか。関連統計を確かめてみます。まず、一定期間にどのくらいの企業が生まれたかを示す「開業率」です。図表 1 は埼玉県による試算値ですが、残念ながら、埼玉の開業率は

2012 年ー2014 年以降低下しています。それは、東京都、神奈川県、千葉県などの近隣都県も同様ですが、問題は埼玉県の水準が常に低い点であり、渋沢翁は渋い表情を浮かべているかもしれません。

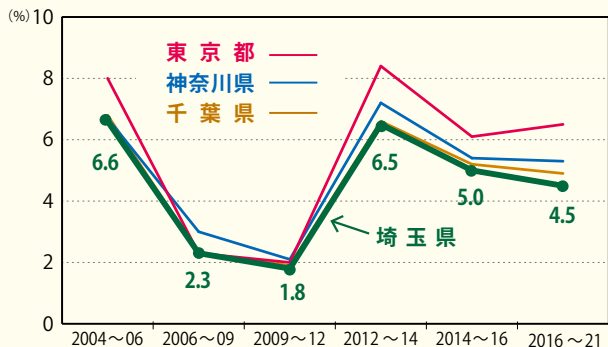
但し、直近データが 2016 年ー2021 年と古い点には注意を要します。また、実際の起業数もさることながら、①スタートアップしたいと思った人の増減や、②何らかのハードルによって途中で起業を諦めてしまうケースの多寡など、潜在的な起業活動を把握することも重要です。この点、埼玉県の現状を「就労構造基本調査」によって確かめてみます。

図表 2 において、「起業希望者」とは、起業を目的に転職を考えている人や起業のため無職になっている人の合計です。「起業準備者」は、そのうち準備を始めた人であり、「起業家」は、過去 1 年以内に起業を果たした人です。これをみますと、2012 年から 2017 年にかけては、三者ともに減少しました。しかし、2017 年から 2022 年にかけては、起業希望者は大幅に増加し、その下で起業準備者、起業家も増加しました。起業希望者が増えた背景としては、起業教育などの地道な取り組みや、数々の成功事例が知れ渡るにしがたい、私たちにとってスタートアップが遠い存在でなくなったこと、などが考えられます。渋沢翁も少しだけ笑顔になってくれたでしょうか。

もっとも、起業希望の「実現率」（起業家÷起業希望者）は、2012 年の 20.2%から 20.0%、17.7%と期を追うごとに低下しています。潜在的な起業家は増加しているが、起業のハードルから諦める人も増えている、と解釈できますし、ここに今後の課題があるように思われます。実現率の引き上げに向けて各支援機関がその機能を発揮し、スタートアップの世界において、当県が渋沢翁の出身地にふさわしい地位を獲得することを強く期待します。

参考文献：「スタートアップとは何か」
（加藤雅俊著 2024 年岩波書店）

図 1：開業率の推移



$$\text{開業率} = \frac{\text{新規に開設された事業所を年平均に均した数}}{\text{期首において既に存在していた事業所}}$$

（資料）埼玉県「埼玉県の産業と雇用のすがた（令和 5 年度版）」

図 2：埼玉県の起業希望者、起業準備者、起業家の数

	2012	2017	2022
起業希望者 (a)	47,600人	40,400人	53,000人
起業準備者	22,800人	21,200人	26,600人
起業家 (b)	9,600人	8,100人	9,400人
実現率 (b/a)	20.2 %	20.0 %	17.7 %

起業希望者：転職希望者・無業者で「自分で事業を起こしたい」と回答した者。

起業準備者：上記のうち求職者

起業家：1 年未満の自営業主・会社等の役員のうち起業した者。

（資料）総務省「就業構造基本調査」